

13 文献総合目録

(1) 平成28年度に発表等を行った文献数一覧

(単位：編)

学 会 誌		公刊図書	機関誌	計
論文・報告	発表・講演要旨			
34	128	—	76	238

(2) 平成28年度に発表等を行った文献の目録

01 育種一般及び育種計画

011 総説

1. 星比呂志・河原孝行、森林総合研究所の新しい中長期計画で進める森林遺伝育種関係の研究課題、森林遺伝育種、5(3):150-154、2016.07.
2. 星比呂志、森林総合研究所の第4期中長期計画 一品種開発、技術開発と普及一、北海道の林木育種、59(1):14-16、2016.12.
3. NAKADA Ryogo (中田了五)、Characterizing *Abies sachalinensis* among plantation species in Japan (日本の造林樹種の中でのトドマツの特徴)、Abies 2016 The 15th International Conference on Ecology and Silviculture of Fir, Program and Abstracts、37、2016.09.
4. 久保田正裕、平成28年度の開発品種について、関西育種場だより、82:3、2017.03.

012 育種計画

1. 高橋誠・平岡裕一郎・武津英太郎・三浦真弘・田村明、品種開発への前方選抜の導入、森林遺伝育種、5:126-133、2016.12.
2. 高橋誠、気候変動に適応するためのスギの育種技術開発、林木育種情報、23:7、2017.01.
3. 田村明・高橋誠・倉本哲嗣・加藤一隆・平岡裕一郎・星比呂志、前方選抜による初期成長に優れた第二世代品種の開発、平成28年版研究成果選集2016、60-61、2016.08.
4. 田村明・山田浩雄・花岡創・中田了五・福田陽子・西岡直樹、北海道育種基本区のカラマツ属における次世代育種集団の基盤構築に向けての取組、平成28年版2016年報、145-149、2016.08.
5. 星比呂志、品種改良でスギの花粉をへらす、日本花粉学会第57回大会公開講演会要旨集、5-6、2016.10.
6. 松下通也、スギの長期動態研究 -これからどこに向かうのか-、森林学会要旨集、128:PR00083、2017.03.
7. 河合慶恵・岩泉正和・三浦真弘・久保田正裕、関西育種基本区における優良な無花粉スギ品種開発の取組み、応用森林学会大会研究発表要旨集、67:30、2016.10.
8. 久保田正裕、第4期中長期計画期間における優良品種と育種技術の開発について、関西育種場だより、80:3、2016.07.

02 遺伝、育種及び変異

021 選抜

1. 大平峰子・坪村美代子・星比呂志、新たな無花粉スギ品種「林育不稔1号」の開発、林木育種情報、24:7、2017.03.
2. 加藤一隆・中田了五・織部雄一郎・久保田正裕・倉本哲嗣、エリートツリーの開発と特定母樹の指定、第3期中期計画成果集、74-75、2016.10.
3. 高橋誠、品種開発を支える育種技術の高度化、森林と林業、2016年7月号:12、2016.07.
4. 高橋誠・平岡裕一郎・三嶋賢太郎・能勢美峰・坪村美代子・大平峰子・花岡創・山野邊太郎・高島有哉・星比呂志・平尾知士・井城泰一・栗田学・武津英太郎・倉本哲嗣・渡辺敦史(九州大学)・田村美帆(九州大学)・宮崎潤二(佐賀県)・挽地あい子(佐賀県)・佐藤嘉彦(大

- 分県)・古澤英生(宮崎県)・世見淳一(宮崎県)・宮里学(鹿児島県)、先端技術を活用してスギの品種改良を高速化する、森林総合研究所第3期中期計画成果集、76-77、2016. 10.
5. 平岡裕一郎・三嶋賢太郎・能勢美峰・坪村美代子・大平峰子・花岡創・山野邊太郎・高島有哉・高橋誠・星比呂志・平尾知士・栗田学・武津英太郎・倉本哲嗣・井城泰一・渡辺敦史(九州大学)・田村美帆(九州大学)、ゲノム情報を利用した育種高速化技術の体系化、森林総合研究所平成28年版研究成果選集2016、2016. 09.
 6. 平岡裕一郎・武津英太郎・三嶋賢太郎・平尾知士・渡辺敦史(九州大学)、6分子育種と従来育種の統合による新世代林業種苗作出技術の開発、研究成果第571集「森林資源を最適利用するための技術開発—新世代林業種苗を短期間で作出する技術の開発—」(農林水産省農林水産技術会議事務局)、35-39、2017. 03.
 7. 山野邊太郎・高島有哉・千葉一美・宮下久哉・木下敏(林野庁)、関東育種基本区における育種集団林からの第二世代スギ・ヒノキ精英樹候補木の選抜—関前78号、関長40号における実行結果—、平成28年版林木育種センター年報、161-163、2016. 08.
 8. 久保田正裕・篠崎夕子・三浦真弘・岩泉正和・笹島芳信・祐延邦資(森林総研非常勤職員)・柏木学、関西育種基本区におけるスギ第2世代精英樹候補木の選抜—スギ30号、スギ31号における実行結果—、平成28年版林木育種センター年報、164-166、2016. 08.
 9. 久保田正裕、四国森林管理局管内における精英樹選抜育種事業60年の成果、四国森林・林業研究発表集(平成28年度)、87-90、2017. 03.
 10. 武津英太郎・倉原雄二・松永孝治・栗田学・倉本哲嗣・竹田宣明・佐藤省治・北本浩・福山友博、九州育種基本区におけるスギ第二世代精英樹候補木の選抜—九熊本第110号・九熊本第129号・九熊本第130号・九熊本第139号における実行結果—、平成28年版林木育種センター年報、167-171、2016. 08.
 11. 武津英太郎・松永孝治・倉原雄二・栗田学・倉本哲嗣、間伐が次世代精英樹候補木の選抜に与える影響、森林遺伝育種学会第5回大会講演要旨集、p. 20、2016. 11.
 12. 武津英太郎・平岡裕一郎・千吉良治・栗田学・倉本哲嗣・高橋誠、新世代林業種苗作出技術による新系統の選抜、研究成果第571集「森林資源を最適利用するための技術開発—新世代林業種苗を短期間で作出する技術の開発—」(農林水産省農林水産技術会議事務局)、46-52、2017. 03.

022 交雑(技術、交雑プロジェクト等を含む)

1. 栗田学・山野邊太郎・平岡裕一郎、高精度、高効率な交配種子生産技術の開発、研究成果第571集「森林資源を最適利用するための技術開発—新世代林業種苗を短期間で作出するための技術の開発—」(農林水産省農林水産技術会議事務局)、p56-65、2017. 03.

023 変異(系統分類、倍数体を含む)

1. 大平峰子・花岡創・平岡裕一郎・渡辺敦史(九州大学大学院農学研究院)、スギ林における根密度のクローン間変異、第128回日本森林学会大会学術講演集、89、2017. 03.
2. 高島有哉・平岡裕一郎・松下通也・山野邊太郎・大平峰子・三嶋賢太郎・高橋誠・平尾知士・栗田学・武津英太郎・花岡創、赤外線サーモグラフィによるスギの蒸散速度評価手法の検討、第5回森林遺伝育種学会大会講演要旨集、p. 13、2016. 11.
3. 高島有哉・井城泰一・藤本高明(鳥取大学)・相蘇春菜(宇都宮大学)・石栗太(宇都宮大学)、

- スギにおける近赤外分光法を用いた化学的および物理的性質の推定、第 67 回日本木材学会大会講演要旨集、B18-P1-20、2017. 03.
4. 高島有哉・三嶋賢太郎・大平峰子、異なる温度条件下で育成したスギの形質評価、第 128 回日本森林学会大会講演要旨集、P1-180、2017. 03.
 5. 田村明・山田浩雄・福田陽子・矢野慶介、カラマツの着花促進と日長・光強度の効果、森林遺伝育種学会第 5 回大会講演要旨集、14、2016. 11.
 6. TANABE Jun (田邊純・宇都宮大学)・ISHIGURI Futoshi (石栗太・宇都宮大学)・TAMURA Akira (田村明)・OHSHIMA Jyunichi (大島潤一・宇都宮大学)・IIZUKA Kazuya (飯塚和也・宇都宮大学)・YOKOTA Shinso (横田信三・宇都宮大学)、Radial and between-family variations of the microfibril angle and the relationships with bending properties in *Picea jezoensis* families (エゾマツにおける曲げ特性に関するマイクロフィブリル傾角の放射方向および家系間変異)、Scandinavian Journal of Forest Research、32(1):39-44、2016. 05.
 7. HIRAOKA Yuichiro (平岡裕一郎)・HIRAO Tomonori (平尾知士)・MISHIMA Kentaro (三嶋賢太郎)・TAMURA Miho (田村美帆・九州大学)・FUKATSU Eitaro (武津英太郎)・IKI Taiichi (井城泰一)・TSUBOMURA Miyoko (坪村美代子)・NOSE Mine (能勢美峰)・OHIRA Mineko (大平峰子)・HANAOKA So (花岡創)・KURITA Manabu (栗田学)・TAKAHASHI Makoto (高橋誠)・HOSHI Hiroshi (星比呂志)・WATANABE Atsushi (渡辺敦史・九州大学)、Accuracy of Genomic Prediction Based on the Plus-Tree Populations in *Cryptomeria japonica* (スギ精英樹集団におけるゲノミック予測の精度)、Plant & Animal Genome Conference XXV:P0587.、2017. 01.
 8. 福田有樹・平尾知士・三嶋賢太郎・大平峰子・平岡裕一郎・高橋誠・渡辺敦史 (九州大学)、遺伝子発現から見たスギのさし木発根、森林遺伝育種学会第 5 回大会講演要旨集、p. 10、2016. 11.
 9. 福田有樹・平尾知士・三嶋賢太郎・大平峰子・平岡裕一郎・高橋誠・渡辺敦史 (九州大学)、Gene expression profiling during adventitious root formation of stem cutting in *Cryptomeria japonica* (スギの不定根形成過程における遺伝子発現プロファイル)、The 58th Annual Meeting of the Japanese Society of Plant Physiologists、p. 235、2017. 03.
 10. 三嶋賢太郎・井城泰一・平尾知士・福田陽子・栗田学・田村明・高橋誠、カラマツ分子育種のための遺伝子基盤情報の整備、第 128 回日本森林学会大会学術講演集、P191、2016. 03.
 11. 三嶋賢太郎・平尾知士・高橋誠、International Plant & Animal Genome XXIV の参加報告、森林遺伝育種、15(3):159-162、2016. 07.
 12. 三嶋賢太郎・栗田学・坪村美代子・平尾知士・能勢美峰・高島有哉・大平峰子、スギにおけるジベレリン処理から雄花着花までの遺伝子発現プロファイル、森林遺伝育種学会第 5 回大会公演要旨集、25、2016. 11.
 13. MISHIMA Kentaro (三嶋賢太郎)・FUKATSU-TSUBOMURA Miyoko (坪村美代子)・HIRAO Tomonori (平尾知士)・TAMURA Miho (田村美帆・九州大学)・KURITA Manabu (栗田学)・NOSE Mine (能勢美峰)・HANAOKA So (花岡創)・OHIRA Mineko (大平峰子)・FUKATSU Eitaro (武津英太郎)・TAKASHIMA Yuya (高島有哉)・IKI Taiichi (井城泰一)・MIURA Masahiro (三浦真弘)・HIRAOKA Yuichiro (平岡裕一郎)・TAKAHASHI Makoto (高橋誠)・HOSHI Hiroshi (星比呂志)・WATANABE Atsushi (渡辺敦史・九州大学)、Putative causative genes discovery and marker development for male sterility aiming at marker assisted selection using high-density linkage map based QTL analysis in Japanese cedar. (高密度連鎖地図での QTL 解析を用いたスギ雄性不

- 稔の推定原因遺伝子の発見と MAS のためのマーカー開発)、Plant and Animal GenomeXXXV Conference、P0586、2017. 01.
14. 三嶋賢太郎・渡辺敦史 (九州大学)・田村美帆 (九州大学)・栗田学・平尾知士・能勢美峰・坪村美代子・花岡創、革新的に高速化した新生代林業用種苗作出の開発、2 連鎖地図の構築と高速マッピングシステムの開発、研究成果第 571 集「森林資源を最適利用するための技術開発—新世代林業種苗を短期間で作出する技術の開発—」(農林水産省農林水産技術会議事務局)、pp.17-20、2017. 03.
 15. 小長谷賢一・谷口亨、RNA-seq によるスギ雌性生殖器官の遺伝子発現プロファイリング、第 34 回日本植物細胞分子生物学会大会講演要旨集、p.132、2016. 08.
 16. 小長谷賢一、ウイルスを利用した林木育種研究の試み、林木育種情報、23:5、2017. 01.
 17. 高田直樹・谷口亨・坂本真吾 (産業技術総合研究所)・光田展隆 (産業技術総合研究所)、イネの遺伝子を使ってポプラの木質バイオマスの増産に成功、森林総合研究所平成 28 年研究成果選集、74-75、2016. 08.
 18. TAKATA Naoki (高田直樹)・TANIGUCHI Toru (谷口亨)、Positive feedback loop in secondary cell wall formation in poplar. (ポプラの二次壁形成における正の転写フィードバックループ)、日本植物生理学会第 58 回大会講演要旨集、PF-081、2017. 03.
 19. 高田直樹・谷口亨、ポプラにおいて見出された二次壁形成の正の転写フィードバックループ、日本木材学会第 66 回大会講演要旨集、A19-15-1030、2017. 03.
 20. 海田るみ (東京農業大学)・山崎稜太 (東京農業大学)・坂東秀平 (東京農業大学)・太治輝昭 (東京農業大学)・坂田洋一 (東京農業大学)・林隆久 (東京農業大学)・田中啓介 (東京農業大学)・馬場啓一 (京都大学)・高田直樹・谷口亨、ポプラ幹におけるメカニカルストレスによるキシログルカン合成酵素の誘導、日本木材学会第 66 回大会講演要旨集、A17-02-0900、2017. 03.
 21. 林隆久 (東京農業大学)・大平莉加 (東京農業大学)・坂本由里奈 (東京農業大学)・竹内俊貴 (東京農業大学)・海田るみ (東京農業大学)・太治輝昭 (東京農業大学)・坂田洋一 (東京農業大学)・西田幸次 (京都大学)・馬場啓一 (京都大学)・高田直樹・谷口亨、キシログルカンとセルロースの結合、日本木材学会第 66 回大会講演要旨集、A17-02-0915、2017. 03.
 22. 半智史 (東京農業大学)・高田直樹・高橋大輔 (Max-Planck Institute)・中田了五・上村松生 (岩手大学)・船田良 (東京農業大学)、ドロノキ放射柔細胞の細胞死に関連するプロテアーゼの遺伝子発現解析、日本木材学会第 66 回大会講演要旨集、A17-02-1615、2017. 03.
 23. 大迫侑貴 (東京農工大学)・高田直樹・谷口亨・海田るみ (東京農業大学)・林隆久 (東京農業大学)・梶田真也 (東京農工大学)、ポプラにおけるセルロース合成酵素遺伝子群の発現解析、日本木材学会第 66 回大会講演要旨集、A18-P1-35、2017. 03.
 24. NANASATO Yoshihiko (七里吉彦)・NAMIKI Sayuri (並木さゆり・筑波大学)・OSHIMA Masao (大嶋雅夫・生物研)・MORIUCHI Ryota (森内良太・東北大学)・KONAGAYA Ken-ichi (小長谷賢一)・SEIKE Nobuyasu (清家伸康・農環研)・OTANI Takashi (大谷卓・農環研)・NAGATA Yuji (永田祐二・東北大)・TSUDA Masataka (津田雅孝・東北大)・TABEI Yutaka (田部井豊・生物研)、Biodegradation of γ -hexachlorocyclohexane by transgenic hairy root cultures of *Cucurbita moschata* that accumulate recombinant bacterial LinA (微生物の LinA タンパク質を蓄積した形質転換カボチャ毛状根による γ -ヘキサクロロシクロヘキサンの生分解)、Plant Cell Reports、35(9):1963-1974、2016. 06.

25. 七里吉彦、培養・形質転換系の開発戦略—カボチャ形質転換系の開発を例に、第34回日本植物細胞分子生物学会（上田）大会講演要旨集、p.60、2016.08.
26. 七里吉彦・小長谷賢一・三上雅史（横浜市立大院・農研機構・生物機能部門）・遠藤真咲（農研機構・生物機能部門）・谷口亨、スギにおける高発現プロモーターの単離及び機能解析、第34回日本植物細胞分子生物学会（上田）大会講演要旨集、p.160、2016.08.
27. AKASHI Kinya（明石欣也・鳥取大学）・YOSHIMURA Kazuya（吉村和也・中部大学）・KAJIKAWA Masataka（梶川昌孝・京都大学）・HANADA Kouhei（花田浩平・奈良先端大学）・KOSAKA Rina（小坂梨奈・奈良先端大学）・KATO Atsushi（加藤敦司・鳥取大学）・KATOH Akira（加藤彰・奈良先端大学）・NANASATO Yoshihiko（七里吉彦）・TSUJIMOTO Hisashi（辻本壽・鳥取大学）・YOKOTA Akiho（横田明穂・奈良先端大学）、Potential involvement of drought-induced Ran GTPase CLRan1 in root growth enhancement in a xerophyte wild watermelon（野生種スイカにおいて乾燥誘導性 Ran GTPase CLRan1 は乾燥時における根の生長促進に寄与する。））、Bioscience, Biotechnology and Biochemistry、80(10):1907-1916、2016.06.
28. 上野山遼（鳥取大学）・七里吉彦・Chiyapo Gwafila（ボツワナ農務省農業研究部）・甲斐政親（鳥取大学）・足立香織（鳥取大学）・難波栄二（鳥取大学）・Mazereku Charles（ボツワナ農務省農業研究部）・明石欣也（鳥取大学）、SNP マーカーを用いたボツワナのジャトロファの系統解析、育種学研究 一般社団法人日本育種学会第130回講演会要旨集、p.243、2016.09.
29. 上野山遼（鳥取大学）・只野翔太（鳥取大学）・Chiyapo Gwafila（ボツワナ農務省農業研究部）・石本雄大（鳥取大学）・七里吉彦・甲斐政親（鳥取大学）・足立香織（鳥取大学）・藤本高明（鳥取大学）・難波栄二（鳥取大学）・Mazereku Charles（ボツワナ農務省農業研究部）・明石欣也（鳥取大学）、アフリカ・ボツワナにおける自生ジャトロファ種子の化学組成および遺伝的多様性の解析、支部創立15周年記念日本農芸化学会中四国支部第47回講演会 講演要旨集、p.41、2017.01.
30. 平尾知士・村上聡（サーモフィッシャーサイエンティフィック）、ターゲットリシーケンスによるクロマツ遺伝子多型の検出、森林遺伝育種学会第5回大会講演要旨集、p.16、2016.11.
31. HIRAO Tomonori（平尾知士）・MATSUNAGA Koji（松永孝治）・TAMURA Miho（田村美帆・九州大学）・WATANABE Atsushi（渡辺敦史・九州大学）、Identification of QTL for Pine Wood Nematode resistance in Japanese Black Pine (*Pinus thunbergii*（クロマツにおけるマツノザイセンチュウ抵抗性 QTL の同定））、Plant and Animal GenomeXXXV Conference、P0585、2017.01.
32. 平尾知士・松永孝治・田村美帆（九州大学）・渡辺敦史（九州大学）、GBS法を利用したクロマツにおけるマツノザイセンチュウ抵抗性の QTL 解析、育種学研究、19(別冊1):178、2017.03.
33. 平尾知士・三嶋賢太郎・能勢美峰・渡辺敦史（九州大学）、革新的に高速化した新生代林業用種苗作出の開発、4有用特性と連鎖したマーカーの発現解析、研究成果第571集「森林資源を最適利用するための技術開発—新世代林業種苗を短期間で作出する技術の開発—」（農林水産省農林水産技術会議事務局）、pp.24-28、2017.03.
34. 福田陽子・花岡創・矢野慶介、北海道に導入されたカラマツ属3樹種のDNAマーカーによる識別法の検討、第128回日本森林学会大会学術講演集、149、2017.03.
35. 石塚航（北海道立総合研究機構林業試験場）・田端あずさ（北海道大学）・小野清美（北海道大学）・福田陽子・原登志彦（北海道大学）、グイマツ葉緑体の完全長ゲノム配列の解読と構造変異の推定、森林遺伝育種学会第5回大会講演要旨集、4、2016.11.

36. 石塚航（北海道立総合研究機構林業試験場）・田端あずさ（北海道大学）・小野清美（北海道大学）・福田陽子・原登志彦（北海道大学）、地理的隔離する北方樹木グイマツ2系統の復元ゲノム情報を用いて、日本生態学会第64回全国大会講演要旨集、P2-0-421、2017.03.
37. 渡辺敦史（九州大学）・田村美帆（九州大学）・栗田学・平尾知士・三嶋賢太郎・能勢美峰・坪村美代子・花岡創、連鎖地図作成に向けた遺伝子の探索とマーカー開発、研究成果第571集「森林資源を最適利用するための技術開発—新世代林業種苗を短期間で作出するための技術の開発—」（農林水産省農林水産技術会議事務局）、p15-17、2017.03.
38. 田中杏奈（九州大学）・栗田学・田村美帆（九州大学）・渡辺敦史（九州大学）、スギさし木発根メカニズム解明に向けた遺伝子発現情報基盤の作成、第128回日本森林学会大会学術講演集、p149、2017.03.

03 樹種、品種の選択と植栽試験

031 次代検定(育種効果を含む)

1. 玉城聡・辻山善洋、スギ雪害抵抗性検定林の30年次までの成長特性、東北森林科学会第21回大会講演要旨集、7、2016.08.
2. 那須仁弥・玉城聡・織部雄一朗・辻山善洋・三浦真弘、平成27年度に実施した東北育種基本区におけるカラマツ第二世代精英樹の候補木の選抜、林木育種センター年報平成28年版、155-156、2016.08.
3. 那須仁弥、東北育種基本区におけるカラマツ特定母樹の申請、みどりの東北、156:7、2017.03.
4. 久保田正裕・篠崎夕子、近畿中国森林管理局管内における次代検定林30年の成果、森林・林業交流研究発表集録（平成28年度）、156-159、2017.03.
5. 三浦真弘、官民連携によるスギ、ヒノキ精英樹の成長評価の取り組み、第67回応用森林学会大会、2016.10.

033 産地試験

1. 磯田圭哉・那須仁弥・岩泉正和、アカマツ広域産地試験地の造成、森林遺伝育種、5:223-225、2016.12.
2. 福田陽子・花岡創・矢野慶介・西岡直樹・宮本尚子・那須仁弥・田村明・山田浩雄、北海道内におけるアオダモの産地間変異—葉緑体DNAおよび初期成長における変異—、北方森林研究、65:43-46、2017.02.
3. 三浦真弘・花岡創・平岡裕一郎・山田浩雄・磯田圭哉・千吉良治・高橋誠・中田了五・井城泰一・久保田正裕・武津英太郎・倉本哲嗣・渡辺敦史（九州大学）、出身地と異なる環境で育成した場合のスギの成長に及ぼす影響、森林総合研究所第3期中期計画成果集、p78-79、2016.10.

04 採種園、結実促進、その他有性繁殖

041 採種園関係

1. 山野邊太郎、スギ・ヒノキ人工交配での不織布袋適用によるカメムシ防除簡略化の試行、第6回関東森林学会大会講演要旨集、p.39、2016.10.
2. 山野邊太郎、不織布製交配袋内で夏越ししたスギ・ヒノキ球果由来種子の発芽諸特性、森林遺伝育種学会第5回大会講演要旨集、p.19、2016.11.

042 着花促進、種子生産性等

1. 坪村美代子・栗田学・渡辺敦史（九州大学）、スギ雄花形成に関わる遺伝子を特定し花粉症対策に活かす、平成28年版研究成果選集2016、p64-65、2016.08.
2. 郷田乃真人（九州大学）・坪村美代子・栗田学・田村美帆（九州大学）・渡辺敦史（九州大学）、九州産スギ精英樹に対する雄性不稔スギ識別マーカーの適用、第72回九州森林学会、508、2016.11.
3. 山野邊太郎・太田清隆（太田苗園）・佐藤靖（佐藤苗園）・小山邦夫（宮城県農林種苗農業協同組合）・今野幸則（宮城県林業技術総合センター）・織部雄一郎、クロマツのエタノール精選種子を寒冷地の種苗生産に適用する取り組み、関東森林研究、67(2):231-234、2017.02.
4. 西川浩己（山梨県森林総研）・松下通也・田村明、カラマツ採種園における受光伐による後生枝の発生について、森林遺伝育種学会第5回大会要旨集、:P24、2016.11.
5. 玉城聡・今野幸則（宮城県林業技術総合センター）・那須仁弥・辻山善洋・千葉信隆、GA4/7を用いた抵抗性クロマツ採種園における着花促進、日本森林学会大会学術講演集、128:146、2017.03.
6. 宮本尚子、【育種技術ノート】SMP～簡易な人工交配、東北の林木育種、213:4、2016.10.

05 採種園、その他無性繁殖

051 さし木、つぎ木、発根性等

1. 大平峰子・花岡創・平岡裕一郎・栗田学・井城泰一・三浦真弘・渡辺敦史（九州大学）、用土の理学的性質がスギのさし木発根性に及ぼす影響、日本森林学会誌、98:265-272、2016.12.
2. 大平峰子・花岡創・三浦真弘・栗田学・平岡裕一郎・渡辺敦史（九州大学）、高効率、促成クローン増殖技術の開発、研究成果第571集「森林資源を最適利用するための技術開発－新世代林業種苗を短期間で作出する技術の開発－」（農林水産省農林水産技術会議事務局）、53-56、2017.03.
3. 板鼻直榮・千吉良治・楠城時彦・古本良、テリハボクのつぎ木増殖、亜熱帯森林・林業研究会研究発表論文集(H27)、27:9-13、2016.08.
4. 千吉良治、九州育種場でのスギさし木増殖の取り組み、森林遺伝育種、5(4):193-196、2016.10.
5. 倉本哲嗣・千吉良治・栗田学・竹田宣明・武津英太郎・倉原雄二・松永孝治、電熱温床によるさしつけ床の加温条件下で育成したスギさし木苗の得苗率と植栽後の成長の違い、第5回森林遺伝育種学会大会講演要旨集21、2016.11.
6. 倉本哲嗣・千吉良治・栗田学・竹田宣明・武津英太郎・倉原雄二・松永孝治・戸高竜一、電熱温床によるさしつけ床の加温条件下で育成したスギさし木苗の得苗率と植栽後の成長、第72回九州森林学会発表会、506、2016.11.
7. 倉本哲嗣・千吉良治・栗田学・竹田宣明・武津英太郎・倉原雄二・松永孝治・戸高竜一、スギのさし木床の加温条件の違いによる発根率と植栽後の成長量の比較、九州森林研究、70:85-87、2017.03.
8. 栗田学・福山友博・竹田宣明・佐藤譲治・大平峰子・武津英太郎・倉原雄二・松永孝治・倉本哲嗣・渡辺敦史（九州大学）、スギの発根に影響を及ぼす環境因子の調査－光質と日長について－、森林遺伝育種学会大会第5回講演要旨集、p11、2016.11.
9. 栗田学・福山友博・竹田宣明・佐藤譲治・大平峰子・武津英太郎・倉原雄二・松永孝治・倉本哲嗣・渡辺敦史（九州大学）、光質の違いがスギの発根に及ぼす影響の評価、第72回九州

森林学会、504、2016. 11.

10. 栗田学・福山友博・竹田宣明・佐藤譲治・倉本哲嗣・倉原雄二・武津英太郎・松永孝治・渡辺敦史（九州大学）、スギの発根に影響を及ぼす環境因子の調査－基質について－、第 128 回日本森林学会大会学術講演集、p209、2017. 03.

052 組織培養

1. 谷口亨・河村文郎・新原修一（鹿児島県森林技術総合センター）・高田直樹・大竹真弓（ツムラ）・河下美都里（ツムラ）・橋本和則（ツムラ）、薬用樹木カギカズラのアルカロイド含有率及び組織培養によるクローン増殖、第 34 回日本植物細胞分子生物学会（上田）大会、p107、2016. 08.
2. 谷口亨、薬用系樹木カギカズラの生産効率化手法の開発、平成 28 年度林木育種成果発表会（木材会館）、成果発表 6 番目、2017. 02.
3. 秋山佳貴（東京農工大学）・塚田健太郎（東京農工大学）・吉田裕子（東京農工大学）・山岸祐介（北海道大学）・中田了五・半智史（東京農工大学）・船田良（東京農工大学）、トドマツ成熟種子由来の不定胚形成細胞を経由した植物体再生に関する研究、第 67 回日本木材学会大会研究発表要旨集 CD、A18-P1-30、2017. 03.

07 樹木園、緑化樹及び広葉樹の育種

071 樹木園、クローン集植所

1. 谷口亨・河村文郎・高田直樹・磯田圭哉・松下通也・佐藤新一・濱本光・佐藤省治、キハダ 23 年生クローンのアルカロイド含有率と成長、第 6 回関東森林学会大会講演要旨集、p38、2016. 10.

072 広葉樹の育種

1. 後藤晋（東京大学）・高橋誠・大谷雅人（兵庫県立大学）、ブナ産地試験地の伐採後にみられた萌芽力の地理的変異、森林遺伝育種、5:121-126、2016. 12.
2. 矢野慶介、エゾノキヌヤナギにおける開花フェノロジーの産地間変異、北方森林研究、65:21-22、2017. 02.
3. 矢野慶介・福田陽子・花岡創・田村明・山田浩雄・生方正俊、北海道北部下川町の試験地におけるヤナギ属 2 樹種のバイオマス生産量のクローン間変異、日本森林学会大会学術講演集、128:P1-168、2017. 03.

08 森林保護技術と被害様式

082 病虫害抵抗性育種(昆虫害、病害等)

1. 星崎和彦（秋田県大）・太田和誠（秋田県大）・中林優季（秋田県大）・井上みずき（日大）・松下通也・蒔田明史（秋田県大）・坂田ゆず（秋田県大）・小林一三（秋田県大）、“北限の松枯れの特徴を踏まえた省力的防除体制:科学的検証と秋田の市民ボランティアによる 15 年間の実践”、森林学会要旨集、128:P74、2017. 03.
2. C. S. L. Vicente（中部大学）・F. X. Nascimnto（サンタカタリーナ連邦大学）・P. Barbosa（エヴォラ大学）・HM. Ke（国立中興大学）・I. J. Tsai（中央研究院）・HIRAO Tomonori（平尾知士）・P. J. A. Cock（ジェームハットン研究所）・KIKUCHI Taisei（菊地泰生・宮崎大学）・HASEGAWA

- Koichi (長谷川浩一・中部大学)・M Mota (エヴォラ大学)、Evidence for an Opportunistic and Endophytic Lifestyle of the Bursaphelenchus xylophilus-Associated Bacteria *Serratia marcescens* PWN146 Isolated from Wilting *Pinus pinaster* (萎凋したフランスカイガンショウから単離したマツノザイセンチュウに関連するバクテリア PWN146 の日和見的と内生的生活史)、*Microbial Ecology*, 72(3):669-681、2016. 10.
3. 織部雄一郎、寒冷な東北地方における抵抗性クロマツ苗木の安定供給、*林木育種情報*、22、2016. 07.
 4. 織部雄一郎・宮本尚子・山野邊太郎・丸山毅・田中功二 (青森県産業技術センター林業研究所)・今野幸則 (宮城県林業技術総合センター)・川上鉄也・小澤創 (福島県林業研究センター)・大西昇 (キリン株式会社)・太田清蔵 (宮城県農林種苗農業協同組合)、抵抗性クロマツで海岸防災林を再生する、平成 28 年版研究成果選集 2016、66-67、2016. 08.
 5. 織部雄一郎、寒冷地におけるマツノザイセンチュウ抵抗性クロマツ苗木の安定供給—採種園管理者と苗木生産者のためのマニュアル、*東北の林木育種*、214:4、2017. 02.
 6. 杉本博之 (山口県農林総合技術センター林業技術部)・大池航史 (山口県農林総合技術センター林業技術部)・岩泉正和・磯田圭哉、抵抗性クロマツ被害進行地における残存個体は強いのか?、*日本樹木医学会大会講演要旨集*、21:2、2016. 11.
 7. 三木直子 (岡山大学)・藤本尚 (岡山大学)・岩泉正和・楠本大 (東京大学)、マツ材線虫病のアカマツ抵抗性品種数種における病徴進展初期の防御反応、*日本森林学会大会学術講演集*、128:271、2017. 03.
 8. 松永孝治・武津英太郎・倉原雄二・栗田学・大平峰子・倉本哲嗣、九州地域におけるクロマツのマツ材線虫病抵抗性の遺伝解析、第 70 回九州森林学会大会、510、2016. 11.
 9. 松永孝治・平尾知士・田中憲蔵・栗田学・井城泰一・渡辺敦史 (九州大学農学部農学研究院)、乾燥ストレス下におけるクロマツの生理状態と遺伝子発現解析、第 128 回日本森林学会大会学術講演集、223 K7、2017. 03.
 10. 山口莉未 (九州大学生物資源環境科学府)・松永孝治・渡辺敦史 (九州大学)、接種と検定によってクロマツ樹体内に侵入したマツノザイセンチュウの頭数評価、第 70 回九州森林学会大会、509、2016. 11.
 11. 小林玄 (九州大学生物資源環境科学府)・松永孝治・田村美帆 (九州大学農学部)・渡辺敦史 (九州大学農学部農学研究院)、マツノザイセンチュウ isolate 間における温度感受性の違いと地理的關係、第 70 回九州森林学会大会、608、2016. 11.
 12. 山口莉未 (九州大学)・松永孝治・平尾知士・渡辺敦史 (九州大学)、クロマツの防御応答とマツノザイセンチュウの挙動との関連性—リアルタイム PCR を利用した時空間的解析—、第 128 回日本森林学会大会学術講演集、223 K8、2017. 03.
 13. 柳澤賢一 (長野県林業総合センター)・松永孝治・杉本博之 (山口県農林総合技術センター林業技術部)・岡田充弘 (長野県木曾地方事務所)・清水香代 (長野県林業総合センター)・富樫一巳 (東京大学農学生命科学研究科)、マツ材線虫病被害先端地域における線虫媒介昆虫種の空間的時期的変化と保持線虫種、第 128 回日本森林学会大会学術講演集、270 P2-189、2017. 03.
 14. 小林玄 (九州大学生物資源環境科学府)・田村美帆 (九州大学農学部農学研究院)・松永孝治・渡辺敦史 (九州大学農学部農学研究院)、外来種マツノザイセンチュウの侵入・拡大過程とその適応性、*日本生態学会第 64 回全国大会*、P1-0-416、2017. 03.

09 育種材料の特性

091 総合特性(成長、形態等)

1. 大平峰子、スギのコンテナ苗を一年で育成する、林業いばらき、711:9、2016.10.
2. 大平峰子・三嶋賢太郎・平岡裕一郎・高部圭司（京都大学大学院農学研究科）、グルタチオン施用がスギ・ヒノキ実生苗の成長に及ぼす影響、森林遺伝育種学会第5回大会講演要旨集、8、2016.11.
3. 平岡裕一郎・斎藤和人（電気通信大学）・松下通也・高橋誠・増田宏（電気通信大学）、林木育種における新たな3次元点群処理技術の利用、第128回日本森林学会大会学術講演集、P1-186、2017.03.
4. 斎藤和人（電気通信大学）・増田宏（電気通信大学）・平岡裕一郎・松下通也・高橋誠、三次元計測点群に基づく樹木の形状再構成第3報、2016年度精密工学会秋季大会講演論文集、I-18、2016.09.
5. 斎藤和人（電気通信大学）・平岡裕一郎・増田宏（電気通信大学）・松下通也・高橋誠、大規模点群を用いた森林の樹木形状生成手法、第128回日本森林学会大会学術講演集、C8、2017.03.
6. 斎藤和人（電気通信大学）・増田宏（電気通信大学）・平岡裕一郎・松下通也・高橋誠、大規模点群に基づく樹木のパラメータ自動抽出、2017年度精密工学会春季大会講演論文集、H06、2017.03.
7. MATSUSHITA Michinari (松下通也)・SUZUKI Setsuko (鈴木節子)・TAMAKI Ichiro (玉木一郎)・岐阜県森林ア)・NAKAGAWA Michiko (中川弥智子・名大)・NISHIMURA Naoyuki (西村尚之・群馬大)・TOMARU Nobuhiro (戸丸信弘・名大)、Thinning operations increase the demographic performance of the rare subtree species *Magnolia stellata* in a suburban forest landscape (間伐による動態学的パフォーマンスの向上)、Landscape and Ecological Engineering、12(2):179-186、2016.04.
8. YANO Keisuke (矢野慶介)、"Seed production and genetic improvement of *Abies sachalinensis* for plantation forestry in Hokkaido, Japan", *Abies 2016 The 15th international conference on ecology and silviculture of fir. Program and abstracts*:P-28、2016.09.
9. 玉城聡・辻山善洋・井城泰一・織部雄一郎・長谷部辰高、東北育種基本区におけるスギ特定母樹の選定・指定ー平成27年度の取組ー、林木育種センター年報 平成28年版、159-160、2016.08.
10. 河合慶恵・笹島芳信・岩泉正和・篠崎夕子・林田修・三浦真弘・屋森修一・久保田正裕、スギ地域差検定林に共通植栽された系統の幼苗における形態と成長パターン、日本森林学会大会講演集、128:P1-183、2017.03.

092 成長

1. 加藤一隆・大平峰子、スギエリートツリーの性能評価試験ーコンテナを利用した育苗12か月後の成長ー、関東森林研究、67(1):141-144、2016.03.
2. 加藤一隆・大平峰子、エリートツリーの性能評価試験ー初期成長についてー、第6回関東森林学会大会講演要旨集、35、2016.10.
3. 加藤一隆・大平峰子、エリートツリーの性能評価試験ー初期成長における家系間差ー、森

- 林遺伝育種学会第5回大会講演要旨集、2、2016.11.
4. MATSUSHITA Michinari (松下通也)・TAKAO Mikako (高尾美香子・秋田県大)・MAKITA Akifumi (蒔田明史・秋田県大)、Sex-different response in growth traits to resource heterogeneity explains male-biased sex ratio (成長形質における環境異質性への応答)、Acta Oecologia、75(1):8-14、2016.08.
 5. 松下通也・花岡創・加藤一隆・板鼻直榮・楠城時彦・千吉良治、防風林早期造成のためのテリハボクにおける初期成長性の評価、亜熱帯森林林業研究会論文集 H28、p1-4、2016.09.
 6. 松下通也、秋田スギ林のクローン構造および成長におよぼす影響の解明、天然秋田スギ林の成立過程の分子生態学的研究に関するセミナー、2017.03.
 7. 井上みずき (秋田県大)・石川雄一 (秋田県大)・星崎和彦 (秋田県大)・高階史章 (秋田県大)・松下通也・蒔田明史 (秋田県大)、天然秋田スギ個体の肥大成長に土壌深・土壌水分・光・隣接木との競争が与える影響、日本森林学会誌、98(3):101-107、2016.08.
 8. 花岡創・福田陽子、北海道におけるアメリカ・カナダストロブマツの適応性-江別市に設定した35年生地試験地の結果-、第128回日本森林学会大会、P1-187、2017.03.
 9. 那須仁弥・井城泰一・山野邊太郎・宮本尚子・織部雄一郎、アカマツ精英樹における節間長の改良効果の予測、第128回日本森林学会大会学術講演集、P146、2017.03.
 10. 石川達也 (九州大学)・作田光太郎 (九州大学)・永吉健作 (鹿児島県)・倉本哲嗣、林地斜面におけるスギ第二世代精英樹候補木の初期成長と葉におけるクロロフィル濃度、九州森林研究、70:21-25、2017.03.
 11. 武津英太郎・松永孝治・倉原雄二・栗田学・倉本哲嗣、九州のヒノキ検定林における検定林内の微小環境と個体の成長との関係、第72回九州森林学会大会、p.68、2016.11.
 12. 武津英太郎、林業におけるドローン利用-林木育種分野における樹高計測への適用事例-、平成28年度九州沖縄地域農業試験研究サポート部門研究会、資料・講演要旨集、p.30-31、2016.12.
 13. 武津英太郎・松下通也・栗田学・倉本哲嗣・平岡裕一郎、スギの成長と試験地内微小環境との関係性の解析-九州育種基本区の事例、第128回日本森林学会大会学術講演集、p.148、2017.03.
 14. 佐藤嘉彦(大分県農林水産研究指導センター林業研究部)・武津英太郎・平岡裕一郎・渡辺敦史(九州大学)・高橋誠、スギ在来品種の成長パターンおよび選抜への遺伝と植栽密度の影響、日本森林学会誌、98(2):45-52、2016.04.
 15. 宮里学 (鹿児島県森林技術総合センター)・宮崎潤二 (佐賀県林業試験場)・挽地あい子 (佐賀県林業試験場)・佐藤嘉彦 (大分県農林水産研究指導センター林業研究部)・古澤英生 (宮崎県林業技術センター)・世見淳一 (宮崎県林業技術センター)・武津英太郎・倉本哲嗣・高橋誠、成長速度に優れた種苗の多用な施業下での成長パターンの解明、研究成果第571集「森林資源を最適利用するための技術開発-新世代林業種苗を短期間で作出する技術の開発-」(農林水産省農林水産技術会議事務局)、40-46、2017.03.

093 材質(心材色を含む)

1. 相蘇春菜 (宇都宮大学)・小松菜緒 (宇都宮大学)・石栗太 (宇都宮大学)・横田信三 (宇都宮大学)・高島有哉・井城泰一・平岡裕一郎・宮下久哉、カラマツ人工交配家系におけるマイクロフィブリル傾角の変異、森林遺伝育種学会第5回大会講演要旨集、p.15、2016.11.

2. 田村明・中田了五・大谷雅人（兵庫県立大学）・生方正俊・山田浩雄、材質優良トドマツ品種の開発、平成 28 年度版 2016 年報、150-154、2016. 08.
3. 田村明・福田陽子・矢野慶介・山田浩雄・生方正俊、トドマツ精英樹実生家系における材質形質の GE 交互作用、第 128 回日本森林学会大会学術講演集、146、2017. 03
4. 宮下久哉・高島有哉・平岡裕一郎・井城泰一、スギ人工交配実生家系における密度及び応力波伝播速度に関する未成熟材から成熟材への移行期の比較、日本木材学会大会研究発表要旨集 67、B17-04-1445、2017. 03.
5. 井城泰一・平岡裕一郎・三嶋賢太郎・高島有哉・渡辺敦史（九州大学）、4 年生スギ精英樹さし木クローンをを用いた早期選抜の検討 第 2 報、森林遺伝育種学会第 5 回大会講演要旨集、p16、2016. 11.
6. 井城泰一・渡辺敦史（九州大学）・平岡裕一郎・三嶋賢太郎・大平峰子・坪村美代子・武津英太郎・三浦真弘・高島有哉、有用特性と連鎖したマーカー検出、研究成果第 571 集「森林資源を最適利用するための技術開発—新世代林業種苗を短期間で作出する技術の開発—」、20~24、2017. 03.
7. 宮本尚子・飯塚和也（宇都宮大学）・内山憲太郎・小野賢二・大平峰子・那須仁弥・木村恵・上野真義・津村義彦（筑波大学）・山田浩雄、スギ立木の心材色の予測に向けたカリウム含量分析およびゲノムワイド関連解析、第 80 回日本植物学会研究発表記録、p. 154 (P-0304)、2016. 09.
8. 飯塚和也（宇都宮大学）・宮本尚子・大島潤一（宇都宮大学）・逢沢峰昭（宇都宮大学）・大久保達弘（宇都宮大学）・石栗太（宇都宮大学）・横田信三（宇都宮大学）、森林・樹木における放射性セシウムの動態（IV）—スギの樹幹木部および葉における ^{137}Cs とカリウム濃度との関係—、宇都宮大学農学部演習林報告、52:59-64、2016. 05.
9. 飯塚和也（宇都宮大学）・宮本尚子・大島潤一（宇都宮大学）・逢沢峰昭（宇都宮大学）・大久保達弘（宇都宮大学）・平田慶（宇都宮大学）、異なる線量率地域に生育したスギ樹幹木部における ^{137}Cs 濃度の分布、第 53 回アイソトープ・放射線研究発表会要旨集、p. 136、2016. 07.
10. 飯塚和也（宇都宮大学）・宮本尚子・山寄丈生（宇都宮大学）・大島潤一（宇都宮大学）・逢沢峰昭（宇都宮大学）・大久保達弘（宇都宮大学）、スギ若齢木に経根吸収された放射性セシウムの樹体内の濃度分布— 樹幹木部における ^{137}Cs に注目して —、第 80 回日本植物学会研究発表記録、p. 155 (P-0309)、2016. 09.
11. 三浦真弘、スギの材質について—集団間の違い—、関西育種場だより、82:2、2017. 03.
12. 倉原雄二、3 年生スギさし木クローンの応力波伝播速度による評価、九州森林研究、70:89-91、2017. 03.
13. 倉原雄二・武津英太郎・栗田学・竹田宣明・福山友博、スギ心材含水率の横打撃共振法および成長錐からの推定、日本木材学会大会研究発表要旨集、67:B18-P1-03、2017. 03.
14. 武津英太郎・倉原雄二・松永孝治・栗田学・倉本哲嗣・千吉良治・井城泰一、スギ植栽密度試験地より得られた応力波伝播速度・MF 傾角の成長との関係とクローン間差、第 67 回日本木材学会大会、B18-P1-06、2017. 03.

094 抵抗性

1. 宮下久哉・加藤一隆・井城泰一、接種年が異なるスギカミキリ人工接種検定における遺伝性の検討、第 6 回関東森林学会大会講演要旨集、p. 38、2016. 10.

2. 宮下久哉・加藤一隆・平岡裕一郎・井城泰一、人工交配家系を用いたスギカミキリ抵抗性に関する組合せ能力の推定、日本森林学会大会学術講演集 128、E4、2017. 03.
3. 山野邊太郎・松永孝治・井城泰一・岩泉正和・平尾知士、マツノザイセンチュウ抵抗性品種の開発、第 3 期中期計画成果選集、72-73、2016. 10.
4. 井城泰一、マツノザイセンチュウ接種検定、東北の林木育種、No. 212:5、2016. 07.
5. 井城泰一・織部雄一郎・千葉里香・弓野奨、東北育種場における東北地方等マツノザイセンチュウ抵抗性育種事業 -平成 27 年度の実施結果-、林木育種センター年報平成 28 年版、157-158、2016. 08.
6. Seppo Ruotsalainen(Natural Resources Institute Finland)・IKI Taiichi(井城泰一)・WATANABE Atsushi(渡辺敦史・九州大学)・Anni Harju(Natural Resources Institute Finland)・Matti Haapanen (Natural Resources Institute Finland)、Pine wood nematode resistance in Finnish Scots pine breeding population(フィンランド産のスコッチパイン育種集団におけるマツノザイセンチュウ抵抗性)、The first HealGenCAR conference: "Callenges in tree resistance breeding"、<http://www.nordicforestresearch.org/healgen/car/meetings/first-conference-challenges-in-tree-resistance-breeding-presentations/>、2016. 06.
7. 袴田哲司(静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター)・井城泰一・山野邊太郎・山本茂弘(静岡県立農林大学校)、マツ材線虫病抵抗性クロマツ大須賀系統実生苗の抵抗性と挿し木発根性、森林遺伝育種学会第 5 回大会講演要旨集、p9、2016. 11.

095 その他

1. 高橋誠、カラマツの安定的種苗生産に向けた技術開発、林木育種情報、23:6、2017. 01.
2. 高橋誠、平成 28 年度に開発した新品種、林木育種情報、24:2-3、2017. 03.
3. 田村明・高橋誠・星比呂志、優良品種の開発について -花粉症対策品種-、森林遺伝育種、6(1):8-12、2017. 01.
4. TSUBOMURA Miyoko (坪村美代子)・KURITA Manabu (栗田学)・WATANABE Atsushi (渡辺敦史・九州大学)、Determination of male strobilus developmental stages by cytological and gene expression analyses in Japanese cedar (*Cryptomeria japonica*) (細胞学的観察および遺伝子発現解析によるスギ雄花発達ステージの決定)、Tree Physiology、36(5):653-666、2016. 05.
5. 平岡裕一郎・井城泰一・能勢美峰・飛田博順・矢崎健一・渡辺敦史(九州大学)・藤澤義武(鹿児島大学)・北尾光俊、高 O3 及び高 CO2 環境下におけるスギクローンの成長と光合成、森林遺伝育種学会第 5 回大会講演要旨集、17、2016. 11.
6. HIRAOKA Yuichiro (平岡裕一郎)・IKI Taiichi (井城泰一)・NOSE Mine (能勢美峰)・TOBITA Hiroyuki (飛田博順)・YAZAKI Kenichi (矢崎健一)・WATANABE Atsushi (渡辺敦史・九州大学)・FUJISAWA Yoshitake (藤澤義武・鹿児島大学)・KITAO Mitsutoshi (北尾光俊)、Species characteristics and intraspecific variation in growth and photosynthesis of *Cryptomeria japonica* under elevated O3 and CO2 (高 O3・CO2 環境下におけるスギの成長と光合成の種特性と種内変異)、Tree Physiology:37(6):733-743、2017. 03.
7. MATSUSHITA Michinari (松下通也)・KAWAKITA Mai (川北真衣・秋田県大)・TSUBOTA Yuki (坪田有希・秋田県大)・SUGIURA Daiki (杉浦大樹・秋田県大)・HOSHIZAKI Kazuhiko (星崎和彦・秋田県大)、Predicting leaf production and dispersal from functional traits of temperate

- tree species. (温帯樹種の葉生産と散布過程の予測手法開発)、第64回生態学会要旨集、: ページ未定、2017.03.
8. WANG Hui (名大)・MATSUSHITA Michinari (松下通也)・TOMARU Nobuhiro (戸丸信弘・名大)・NAKAGAWA Michiko (中川弥智子・名大)、“High male fertility in males of a subdioecious shrub in hand-pollinated crosses (受粉処理における樹木の雄性繁殖成功の差異)”、AoB Plants、8 (plw067)、2016.10.
 9. 中田了五、HFD法による樹液流量の長期連続測定、第67回日本木材学会大会研究発表要旨集 CD、A19-15-1000、2017.03.
 10. NAKABA Satoshi (半智史・東京農工大学)・ARAKAWA Izumi (荒川泉・東京農工大学)・MORIMOTO Hikaru (森本光・東京農工大学)・NAKADA Ryogo (中田了五)・BITO Nobumasa (尾頭信昌・名古屋大学)・IMAI Takanori (今井貴規・名古屋大学)・FUNADA Ryo (船田良・東京農工大学)、Agatharesinol biosynthesis-related changes of ray parenchyma in sapwood sticks of *Cryptomeria japonica* during cell death (スギ辺材小試験体の放射柔細胞の細胞死におけるアガサレジノール合成に関わる変化)、Planta、243(5):1225-1236、2016.05.
 11. NAKABA Satoshi (半智史・東京農工大学)・MORIMOTO Hikaru (森本光・東京農工大学)・ARAKAWA Izumi (荒川泉・東京農工大学)・YAMAGISHI Yusuke (山岸祐介・北海道大学)・NAKADA Ryogo (中田了五)・FUNADA Ryo (船田良・東京農工大学)、Responses of ray parenchyma cells to wounding differ between earlywood and latewood in the sapwood of *Cryptomeria japonica* (スギ辺材の放射柔細胞の傷害に対する反応は早材と晩材で異なる)、Trees-Structure and Function、31(1):27-39、2017.02.
 12. 奥田梨沙子 (名古屋大学)・中田了五・今井貴規 (名古屋大学)、カラマツ心材成分の二次変化(重合)と心材色特性の発現との関連性、第67回日本木材学会大会研究発表要旨集 CD、A17-02-1700、2017.03.
 13. 花岡創・福田陽子・今井啓二、画像解析によるカラマツ針葉のクロロフィル定量の可能性と課題、第65回北方森林学会大会、P12、2016.11.
 14. 花岡創・福田陽子・今井啓二、画像解析によるカラマツ針葉のクロロフィル定量の可能性と課題、北方森林研究、64:31-34、2017.02.
 15. 岩泉正和、関西育種基本区の山陰北陸地域で開発された抵抗性クロマツの着花特性、応用森林学会大会研究発表要旨集、67:27、2016.10.
 16. 河合慶恵、スギの雄花稔性と乾燥ストレス耐性に関連はあるのだろうか?、関西育種場だより、80:1-2、2016.07.
 17. 中川拓真 (京都府立大院)・河合慶恵・磯田圭哉・久保田正裕・池田武文 (京都府立大院)、スギ精英樹における水分生理特性の系統間変異、日本森林学会大会講演集、128:P1-185、2017.03.

10 遺伝資源

101 収集、保存

1. 遠藤圭太・木村恵・生方正俊・山田浩雄・栗田祐子・塙栄一・木下敏 (林野庁)・安部波夫、TTC還元法による超低温保存したブナ種子の生存評価、低温生物工学会セミナー及び年会講演要旨集、61:11、2016.06.
2. ENDOH Keita (遠藤圭太)・FUJIKAWA Seizo (藤川清三・北海道大学)・ARAKAWA Keita (荒川

- 圭太・北海道大学)、Adaptation to freezing in evergreen leaf cells of fir (*Abies sachalinensis*) (トドマツ針葉細胞の凍結適応機構)、The 15th International Conference on Ecology and Silviculture of Fir Program and Abstracts、15:49、2016.09.
3. 遠藤圭太・松下通也・木村恵・生方正俊・山田浩雄・栗田祐子・埴栄一・木下敏 (林野庁)・安部波夫、乾燥法によるブナ種子の超低温保存、Cryopreservation Conference 2016、3:33、2016.11.
 4. 遠藤圭太・大宮泰徳・中田了五・谷口亨・生方正俊・山田浩雄・栗原美雪 (森林総研非常勤職員)、緩速凍結法によるブナ冬芽の超低温保存、日本木材学会大会研究発表要旨集、67:A18-P1-28、2017.03.
 5. 遠藤圭太、「アンヒドロビオシス」状態のスギ種子の高温・低温耐性、林木育種情報、24:6、2017.03.
 6. 川村浩平 (北海道大学)・嘉見大助 (農研機構北海道農業研究センター)・鈴木伸吾 (北海道大学)・田中大介 (農研機構遺伝資源センター)・遠藤圭太・山岸祐介 (北海道大学)・荒川圭太 (北海道大学)、形質転換樹木の超低温保存技術に関する基礎研究、Cryopreservation Conference 2016、3:34、2016.11.
 7. 川村浩平 (北海道大学)・嘉見大助 (農研機構北海道農業研究センター)・鈴木伸吾 (北海道大学)・田中大介 (農研機構遺伝資源センター)・遠藤圭太・山岸祐介 (北海道大学)・荒川圭太 (北海道大学)、形質転換ポプラの超低温保存技術に関する基礎研究、Cryopreservation Conference 2016、3:71、2016.11.
 8. 川村浩平 (北海道大学)・桜井健至 (北海道大学)・嘉見大助 (農研機構北海道農業研究センター)・田中大介 (IBBP センター)・遠藤圭太・鈴木伸吾 (北海道大学)・山岸祐介 (北海道大学)・荒川圭太 (北海道大学)、交雑ポプラの ER 局在性 GFP 導入株における ER の構造解析と超低温保存法の確立、日本木材学会大会研究発表要旨集、67:A17-02-1600、2017.03.
 9. 大塚次郎・飯田啓達・飯野貴美子・成田有美子・増山真美・板鼻直榮・磯田圭哉・近藤禎二 (森林総研非常勤職員)・山田浩雄・生方正俊、コウヨウザンの球果と種子の形質および精選手法について、第 6 回関東森林学会大会発表要旨集、E59、2016.10.
 10. 大塚次郎・成田有美子・近藤禎二 (森林総研非常勤職員)・磯田圭哉・山田浩雄・生方正俊、コウヨウザンの実生およびさし木コンテナ苗生産技術について、第 128 回日本森林学会大会学術講演集、P1-171、2017.03.
 11. KIMURA K. Megumi (木村恵)・OHTANI Masato (大谷雅人・兵庫県立大学)・IWAIZUMI G. Masakazu (岩泉正和)・YANO Keisuke (矢野慶介)・TAKAHASHI Makoto (高橋誠)、"Changes in the population structure of *Abies firma* in a temperate mixed forest located in Fukushima Prefecture, eastern Honshu, Japan (福島県の温帯林におけるモミの個体群動態の変化)", Abstracts of The 15th International Conference on Ecology and Silviculture of Fir、p.44、2016.09.
 12. 千吉良治・板鼻直榮・古本良・楠城時彦、西表島の複数のイジュの 2 年 2 か月間の開花時期、平成 28 年度亜熱帯森林・林業研究会 研究発表会要旨集、p.14、2016.08.
 13. 千吉良治・楠城時彦・古本良・板鼻直榮、西表島古見におけるイジュの開花期間と開花のピークに関する 3 開花期の変化、亜熱帯森林・林業研究会 研究発表論文集、平成 28 年度:21-24、2017.03.
 14. 千吉良治、イジュの開花習性について、林木育種情報、24:5、2017.03.

15. NANJO Tokihiko (楠城時彦)・KATO Tomoko (加藤智子)・FURUMOTO Ryo (古本良)・CHIGIRA Osamu (千吉良治)・ITAHANA Naoei (板鼻直榮)、八重山諸島における希少樹種オオニンジンボクの着果状況および種子の特性調査、平成 27 年度亜熱帯森林・林業研究会研究発表論文集、27:5-8、2016. 08.
16. NANJO Tokihiko (楠城時彦)・FURUMOTO Ryo (古本良)・KATO Tomoko (加藤智子)・MATSUSHITA Michinari (松下通也)・NAKAZATO Nagahiro (仲里長浩・和歌山県立有田中央高等学校総合学科)・CHIGIRA Osamu (千吉良治)、フクギのさし木発根率の性差に関する研究、平成 28 年度亜熱帯森林・林業研究会講演要旨集、28:13、2016. 08.
17. NANJO Tokihiko (楠城時彦)・FURUMOTO Ryo (古本良)・KATO Tomoko (加藤智子)・CHIGIRA Osamu (千吉良治)・MATSUSHITA Michinari (松下通也)・NAKAZATO Nagahiro (仲里長浩・和歌山県立有田中央高校)、フクギのさし木発根率の性差に関する研究、平成 28 年度亜熱帯森林・林業研究会研究発表論文集、28:17-20、2017. 03.
18. 徳本雄史 (名大)・松下通也・岸本(山田)圭子 (新潟大)・五十君友宏 (名大)・中川弥智子 (名大)、雌雄異株低木のアブラチャンとシロモジ (クスノキ科クロモジ属) の訪花昆虫群集と繁殖成功の種間差、第 6 回中部森林学会要旨集、6:#218、2016. 10.
19. 徳本雄史 (名大)・松下通也・岸本圭子 (新潟大)・五十君友宏 (名大)・中川弥智子 (名大)、開花時期の異なるクスノキ科クロモジ属 2 種の訪花昆虫と繁殖成功、生態学会 2016 年度中部支部大会要旨集、P37、2016. 12.
20. 岩泉正和・三浦真弘・河合貴之・笹島芳信・磯田圭哉、固有樹種シコクシラベ集団内の林分構造の違いと次世代の遺伝的多様性との関係、日本生態学会大会講演要旨集、64:P2-0-416、2017. 03.
21. OHTANI Masato (大谷雅人・兵庫県立大学)・IWAIZUMI Masakazu G (岩泉正和)・MIYAMOTO Naoko (宮本尚子)・YANO Keisuke (矢野慶介)・NASU Jinya (那須仁弥)・TAKAHASHI Makoto (高橋誠)、Year-to-year variation in paternal and maternal reproductive successes of Momi fir trees in Abukuma Mountains, eastern Japan (阿武隈高地のモミ林におけるモミの父性および母性繁殖成功の年次変化)、Proceedings of Abies 2016: The International Conference on Ecology and Silviculture of Fir、15:53、2016. 09.

102 分類、同定、評価

1. 磯田圭哉・木村恵・遠藤圭太・塙栄一・高橋誠・矢野慶介・那須仁弥・宮本尚・岩泉正和・篠崎夕子・大谷雅人 (兵庫県立大)・平岡宏一 (元林木育種センター職員)、群馬県片品村シラカンバ林木遺伝資源保存林におけるモニタリング調査 (5 年目) の結果、平成 28 年版林木育種センター年報、172-176、2016. 08.
2. 磯田圭哉・大塚次郎・飯田啓達・成田有美子・増山真美・近藤禎二 (森林総研非常勤職員)・山田浩雄・生方正俊、東京大学千葉演習林内のコウヨウザン林分における自殖家系の検出、第 6 回関東森林学会大会講演要旨集、p. 38、2016. 10.
3. 磯田圭哉・山田浩雄・近藤禎二 (森林総研非常勤職員)・大塚次郎・生方正俊、さし木造林されたコウヨウザン林における成長形質のクローン間変異の解析、森林遺伝育種学会第 5 回大会講演要旨集、p. 18、2016. 11.
4. 磯田圭哉・大塚次郎・飯田啓達・成田有美子・増山真美・近藤禎二 (森林総研非常勤職員)・山田浩雄・生方正俊、東京大学千葉演習林内のコウヨウザン林分における自殖家系の検出、

- 関東森林研究、68(1)、ページ未定、2017.03.
5. 磯田圭哉・松下通也・山田浩雄・近藤禎二（森林総研非常勤職員）・大塚次郎・生方正俊、広島県庄原市のコウヨウザン林におけるクローン構成の解明と成長形質のクローン間変異の解析、第128回日本森林学会大会学術講演集、p.150、2017.03.
 6. 生方正俊・塙栄一・田村明、カラマツの種子成熟に影響する要因の解明に向けて、第6回関東森林学会大会講演要旨集、65、2016.10.
 7. 生方正俊、国産針葉樹の採種適期は、どこまで解明されているか、第5回森林遺伝育種学会大会講演要旨集、p.8、2016.11.
 8. 生方正俊、「コウヨウザン」について(1)、林木育種情報、23:2-3、2017.01.
 9. 生方正俊・田村明・塙栄一・板鼻直栄・中島章文、カラマツ天然林における種子成熟時期の個体間差および年次間差、第64回日本生態学会大会講演要旨集、P2-R-478、2017.03.
 10. 生方正俊・田村明・高橋誠・対馬俊之（北海道立総合研究機構森林研究本部林業試験場道北支場）・今博計（北海道立総合研究機構森林研究本部林業試験場）・田中功二（青森県産業技術センター林業研究所）・蓬田英俊（岩手県林業技術センター）・中村博一（群馬県林業試験場）・清水香代（長野県林業総合センター）・西川浩己（山梨県森林総合研究所）・矢野慶介・井城泰一、カラマツ種子の成熟時期の植栽地間変異、第128回日本森林学会大会学術講演集、p.146、2017.03.
 11. 生方正俊、「コウヨウザン」について(2)、林木育種情報、24:4、2017.03.
 12. 大塚次郎・飯田啓達・飯野貴美子・成田有美子・山田浩雄・木下敏（林野庁）、絶滅危惧種のスイカズラ科ヒョウタンボク3種の生育状況および液果と種子の形状について、平成28年版林木育種センター年報、177-180、2016.08.
 13. 山田浩雄・近藤禎二（森林総研非常勤職員）・磯田圭哉・大塚次郎・生方正俊、成長曲線を用いたコウヨウザンの材積成長過程の解析、第128回日本森林学会大会学術講演集、P1-170、2017.03.
 14. 近藤禎二（森林総研非常勤職員）・山田浩雄・磯田圭哉・大塚次郎・飯田啓達・生方正俊、東京大学千葉演習林におけるコウヨウザンの成長、第6回関東森林学会大会発表要旨集、E61、2016.10.
 15. 近藤禎二（森林総研非常勤職員）・山田浩雄・磯田圭哉・大塚次郎・生方正俊、樹幹解析によるコウヨウザンの成長パターンの解析、第5回森林遺伝育種学会大会講演要旨集、p.3、2016.11.
 16. 近藤禎二（森林総研非常勤職員）・山田浩雄・大塚次郎・磯田圭哉・生方正俊、わが国におけるコウヨウザンの成長、第128回日本森林学会大会学術講演集、P1-169、2017.03.
 17. NANJO Tokihiko（楠城時彦）、マングローブ樹種ヒルギダマシ（*Avicennia marina*）の耐乾性試験、第72回九州森林学会大会、72:64、2016.11.
 18. NANJO Tokihiko（楠城時彦）、マングローブ樹種ヒルギダマシ（*Avicennia marina*）の耐乾性試験、九州森林研究、70:69-72、2017.03.
 19. 鳥丸猛（三重大）・大場将平（三重大）・永松大（鳥取大）・松下通也・赤田辰治（弘前大）・西谷信一郎（大阪府立箕面東高）、日本全国集団を用いたヒメアオキの雄特異的ゲノム領域の探索、第64回生態学会要旨集、:ページ未定、2017.03.
 20. 岩泉正和、DNA分析技術を用いた優良品種の系統管理について、関西育種場だより、81:3、2016.11.

103 情報管理

1. 花岡創・古本良・磯田圭哉・大谷雅人（兵庫県立大学）、絶滅危惧種クサミズキの現状評価と保全に対する考察、平成28年度亜熱帯森林・林業研究会、11、2017.03.
2. 花岡創・古本良・磯田圭哉・大谷雅人（兵庫県立大学）、希少植物遺伝資源の保全計画立案手法の提案とクサミズキへの適用、平成28年度亜熱帯森林・林業研究会論文集、p11-16、2017.03.

11 天然林等の育種

111 天然林の育種

1. 木村恵・内山憲太郎・酒井敦・大谷達也・岩泉正和、高知県梁魚瀬地域におけるスギ高齢林の遺伝的特徴と遺伝構造、第64回日本生態学会大会講演要旨集、64:P2-M-371、2017.03.
2. 岩泉正和、アカマツの保全にむけて地理的変異を解明する、森林総合研究所第3期中期計画研究成果集、76-77、2016.06.
3. IWAIZUMI Masakazu G (岩泉正和)・KAWAI-MUNEHARA Yoshie (河合慶恵)・SASAJIMA Yoshinobu (笹島芳信)・ISODA Keiya (磯田圭哉)・Nasu Jinya (那須仁弥)・Ohtani Masato (大谷雅人・兵庫県立大学)、Evaluation of genetic structure and diversity within and among populations of an endemic species, *Abies veitchii* var. *shikokiana* in Shikoku, Japan (四国の固有樹種シコクシラベにおける集団間・集団内の遺伝的構造と多様性の評価)、Proceedings of Abies 2016: The International Conference on Ecology and Silviculture of Fir、15:43、2016.09.
4. 岩泉正和、稀少樹種シコクシラベの遺伝的変異の解明、関西育種場だより、81:2、2016.11.
5. 岩泉正和・笹島芳信・磯田圭哉・那須仁弥・大谷雅人（兵庫県立大学）、固有樹種シコクシラベの核SSRマーカーに基づく遺伝的変異の評価、森林遺伝育種、5:172-179、2016.11.
6. 岩泉正和・宮田翔介（広島県）・平尾知士・山野邊太郎・磯田圭哉・井城泰一・松永孝治・田村美帆（九州大学）・渡辺敦史（九州大学）、分布域を網羅した全国有名クロマツ植栽林の遺伝的変異、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、5:2、2016.11.
7. 岩泉正和・井城泰一・平尾知士・山野邊太郎・磯田圭哉・松永孝治・渡辺敦史（九州大学）、全国有名クロマツ林から採取した球果と種子の形質変異、日本森林学会大会学術講演集、128:145、2017.03.

12 外国樹種の育種

121 外国樹種の育種

1. 田村明・宮下久哉、北米のカラマツ類採種園と育苗状況の視察報告、森林遺伝育種、5(3):155-158、2016.07.
2. HANAOKA So(花岡創)・OHIRA Mineko(大平峰子)・MATSUSHITA Michinari(松下通也)・Jason KARIUKI (KEFRI)、Optimizing the size of root cutting in *Melia volkensii* for improving clonal propagation and production of quality planting stock (*Melia volkensii* におけるクローン増殖および質の高い苗木生産のための根挿しサイズの最適化)、African Journal of Biotechnology、15:1551-1558、2016.07.

1 2 2 海外の林木育種技術協力

1. 松下通也、テリハボクに関する台湾林業試験所との国際共同研究、林木育種情報、No. 22、p8、2016. 07.
2. Stephen Omondi (KEFRI)・Joseph Machua (KEFRI)・John Gicheru (KEFRI)・MATSUSHITA Michinari (松下通也)・HANAOKA So (花岡創)、DNA analysis of *Melia volkensii* and *Acacia tortilis* (*Melia volkensii* と *Acacia tortilis* の遺伝解析)、International Conference on "Project on the Development of Drought Tolerant Trees for Adaptation to Climate Change in Drylands of Kenya".、Speaker#02、2017. 02.
3. Bernald M. Kamono (KEFRI)・Ezekiel M. Kyalo (KEFRI)・MATSUSHITA Michinari (松下通也)・Stephen Indieka (KEFRI)、"Status of seed production in *Melia volkensii* clonal orchards (*Melia volkensii* 採種園における種子生産状況)"、International Conference on "Project on the Development of Drought Tolerant Trees for Adaptation to Climate Change in Drylands of Kenya".、Speaker#08、2017. 02.
4. 宮下久哉・生方正俊・花岡創・松下通也・山野邊太郎・坂本庄生・千葉信隆・藤原優理・橋本光司・山口秀太郎・坂井敏純・上澤上静雄・玉泉幸一郎 (九大)・作田耕太郎 (九大)・津山孝人(九大)・後藤栄治(九大)、ケニア国乾燥地耐性育種プロジェクトにおける優良種苗の開発、森林総合研究所第3期中期計画成果集、80-81、2016. 10.
5. KEFRI(編) Jason KARIUKI (KEFRI)・HANAOKA So (花岡創)・MIYASITA Hisaya (宮下久哉)・David MUCHIRI (KEFRI)、Chapter2: Breeding for improved *Melia* seed and seedlings (改良された *Melia* の種子や実生に向けた育種)、Guideline on production, distribution and use of improved *Melia* seed and seedlings in the drylands of Kenya (改良された *Melia* の種子や実生の生産、配布と利用のガイドライン)、6-12、2016. 07.
6. 矢野慶介、フィンランドの林業と林木育種事業報告、北海道の林木育種、59(1):32-38、2016. 09.

1 3 会議報告

1. 渡辺敦史 (九州大学)・高橋誠、公開シンポジウム「スギにおける分子育種の幕開け」成果発表会概要、森林遺伝育種、5:106-109、2016. 12.

1 5 その他

1. AGUNG Prasetyo (アグン プラセティオ・宇都宮大学)・ENDO Ryota (遠藤良太・千葉県森林研究所)・TAKASHIMA Yuya (高島有哉)・ISHIGURI Futoshi (石栗太・宇都宮大学)・TANABE Jun (田邊純・宇都宮大学)・AISO Haruna (相蘇春菜・宇都宮大学)・FANNY Hidayati (ファニー ヒダヤティ・ガジャマダ大学)・OHSHIMA Jyunichi (大嶋潤一・宇都宮大学)・IIZUKA Kazuya (飯塚和也・宇都宮大学)・YOKOTA Shinso (横田信三・宇都宮大学)、Anatomical characteristics in 20-year-old *Zelkova serrata* trees from eight half-sib families (20年生ケヤキ自然交配8家系における組織学的特徴)、Journal of Wood Science、62:472-476、2016. 06.
2. 吉田和正、森林総合研究所第4期中長期計画における林木育種センターと森林バイオ研究センターの取り組み 森林バイオ研究センター、林木育種情報、No. 22:5、2016. 07.
3. 石塚航 (北海道立総合研究機構林業試験場)・矢野慶介、国際会議 *Abies* 2016 の開催、北海道の林木育種、59(2):1-9、2017. 03.

4. 倉本哲嗣、九州育種場が開発した新しい品種について、九州育種場だより、33:2-3、2016.08.
5. 栗田学、海外における施設内採種園の活用ーアイルランドー、九州育種場だより、34:3、2017.01.
6. 武津英太郎、林木育種と科学と技術、森林遺伝育種、6(1):28-29、2017.01.